

折紙探偵団新聞

継続
お願いの
第6号

100円

切り込み

折り紙批評体系

——最終回——

折り紙の遊戯性

これまで筆者が述べてきたことは、折り紙を語るための思考法の模索でありました。そのため、これまで既成の幾つかの価値観に対して筆者なりの思考法を展開してきたわけです。最終回の今回取り上げるのは、折り紙の遊戯性についてということになります。

遊戯とはどんなものでしょう。例えば、弓矢はただ思うに任せて射っているだけでは遊びとはならず的を目掛けて努力したとき遊びとなります。けんだましかり、ファミコンしかりです。遊戯は、行為に対する負荷とその先にある目的に対する達成感が対になって成立していると考えられると思います。そして、目的のためにその負荷が耐えうるものでなければいけません。折り紙は折るという負荷に対して、それが機能する（飛ぶ、何かの形に見える、美しい）という代価を得ます。この対を揃えることが折り紙が遊戯であるための条件と考えられます。筆者は、これまでこの対を同時に認識することを折り紙的（四次元的）と言ってきました。折り紙は、遊戯としてこれを捉えたときもっとも強い意味で折り紙的であると言えるでしょう。造形として捉えた折り紙についてその造形過程を想像する意味や、一枚不切のようなルールにこだわる意味について考えるとき、遊戯として成立

する折り紙が、折り紙が造形やパズルとして面白く、独特であるための条件をバランスよく備えていることは驚くべき、しかし、当然であるかも知れません。

折り紙が遊戯であることは、多くの日本人にとって論を待ちません。遊戯としての折り紙を体験している人にとって、折り紙を折ることと切り離して考えることは難しいでしょう。折るという負荷に耐えられなくなったとき、その負荷と目的のバランスが崩れ去ったとき、多くの人（鬼ごっこやかくれんぼをやらなくなるように）折り紙を忘れてゆきます。逆に言えば、折り続ける人にはそのバランスが保たれていることになります。或る人は、負荷に耐えうる目的を見だし、或る人は、負荷の中に（一折り一折りの変化の面白さ・・・）に小さな目的を見付けます。そうして、無意識のうちにこのバランスを保ち続けた人が、創作と呼び、作品を見て貰い、折って貰いたいと感じるようになったとき、折り紙の作品が、負荷と目的のバランスが崩れ去った人々や違った目的を持った人に、新たにどのように映るのかを考えることになるはずです。

作家をして、このような負荷を耐えさせた目的が必ずあるはずです。それが伝わらずして何が面白いでしょう。批評することが、そのための手助けとなれば素晴らしいと思います。

長々と続けてきた抽象的な議論はそろそろおしまいにはなくてはなりません。回を改め、具体的な作家や作品についての批評的な文章を書かせていただくことになるでしょう。これまで、これをお読み戴いた方で批評することの必要性を感じて戴ければ幸いです。この新聞をお読みになっている方は恐らく、折り紙が大好きな方々でしょう。大好きと言えるような作品や作家について、語ってみてください。どんな小文でも構いません。投稿は何時でも募集しています。多くの人の折り紙作品に対する思いが、折り紙の批評体系なるものを形造っていくものと思います。

1年間、連載で続けてまいりました。西川博士の大論文「折り紙批評体系」も、今回をもちまして一応、終了となります。ながい間、ご苦労さまでした。自身、専門の論文の提出もあった大事な時期に本当によく頑張ってくれました。今、彼は無事博士号もパスし、カナダトロント、アメリカニューヨークの折り紙フレンドに会いに行く準備に駆けまわっています。帰国してからのお話を楽しみしましょう。本当にありがとうございました。

次回からは、新連載、MR. こだわり 目黒先生の「実用折紙言設計法」が始まります。

目黒さんは、とにかく一枚で折る、ことしか頭にないみたく、何十という角を折り出すような人で若いわりに結構、頑固一徹、どうぞお楽しみに。



館長 布施知子

折り紙異人館第4回 フランス編

◎ジェン・ジェローム・カサロンガ
(Jen Jerome Casalonga)

コンピューター関係のことを学んでいる大学生。MFPP (Mouvement Francais des Plieurs de Papie) の会員。

小さいとき、Declicというショーで折り紙をしているのを見たことがあって、それがずっと印象に残っていて、10年前にロバート・ハービンの折り紙の本を4冊買い、それから自分の人生が大きく変わったそうです。動く折り紙が好きで、将来はそういう方面の創作をしたいとのことでした。

前回で少し触れた『かや草』の「蟹」および「蜘蛛」の折り図では、実線の脇に「外」と書いて「山線」を、点線の脇に「内」と書いて「谷線」を表している。

『かや草』では、この他にも面白い山線と谷線の表記法があるので紹介しておこう。「おびな」と、六歌仙の「業平」「文屋」「黒主」の展開図をよく見ると、折り順を示す番号の一部が、裏文字（鏡文字）になっている。他は番号順に山折りしてゆくが、ここだけは谷折りにせよという指示になっているのだ。右の図は「業平」の部分だが、「十」の鏡文字と判らせるために筆の勢いを使っているところなど感激ものである。従来折り紙愛好家の手元に流布している『かや草』のコピーは主としてアメリカ版（写本）であって、それだと写した人が理解出来なかったらしく普通の文字に書き直してあるので、折り紙専門家の先生がたもあまりお気付きではないようだ。粗雑な写本とは似ても似つかぬ美しい原本がまだ出版されていないという折り紙後進国日本の現状がなげかわしい。（原本の一部がモノクロで佐久間女史の本の付録にあるだけだ。）

『かや草』は1845年までに書かれた本だが、それより古い「福助折形工夫の伝」（1806年）に

折紙異人館



ジェン・ジェローム・カサロンガ
Jen Jerome Casalonga

ヨーロッパ各国の折り紙コンベンションの常連で、コルシカ島出身の彼は、1988年にCOSB (The Corsican Origami Society Bulletin) という会を起し、コンピューターなどを使って書いたブックレットを独自に出版したり、相当な折りキチのようです。

ジェンヌビエーブ
Genevieve
de GOUVION
ST CYR



◎ジェンヌビエーブ (Genevieve de GOUVION ST CYR)

【彼女の名前の発音は非常にむずかしく、始めの部分だけカタカナで記しました。】

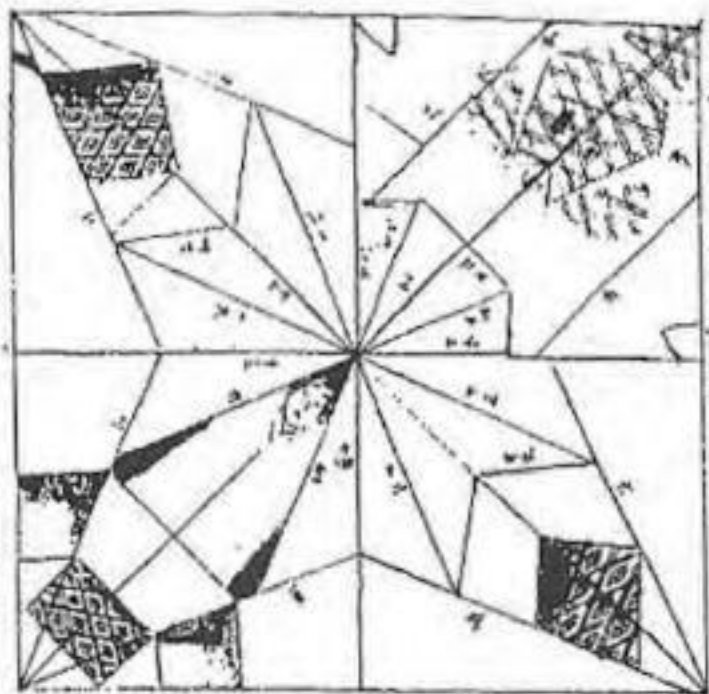
MFPPの会員。カサロンガと同じく、ヨーロッパ各国の折り紙コンベンションの常連。自身の創作はありませんが、みんなと一緒に折ることがとてもお好きで、たいへんやさしく思いやりのある方です。

お仕事はフリーの映画編集。「主にどんなものを？」とたずねたら、「何でも」ということでした。

おりがみ庵

【第二回】 岡村昌夫

もはっきりと山と谷の区別が示されている。展開図が太線と細線で書かれていて、「ふと筋はそとへ、ほそハ内へ折」と説明されている。線種によって山谷を書き分けている資料としてはこれが現存最古のものであ



ろう。『秘伝千羽鶴折形』（1797年）が山谷の区別を全く表現しようとしていなかったのに比べて、画期的な進歩があったわけだ。

『秘伝千羽鶴折形』より古いと思われる『折形手本忠臣蔵』は、「上へ折」「下へ折」「うらへ折」などと書いて説明しているが、中割り折りを「内へ折り込」と説明しているのが注目される。

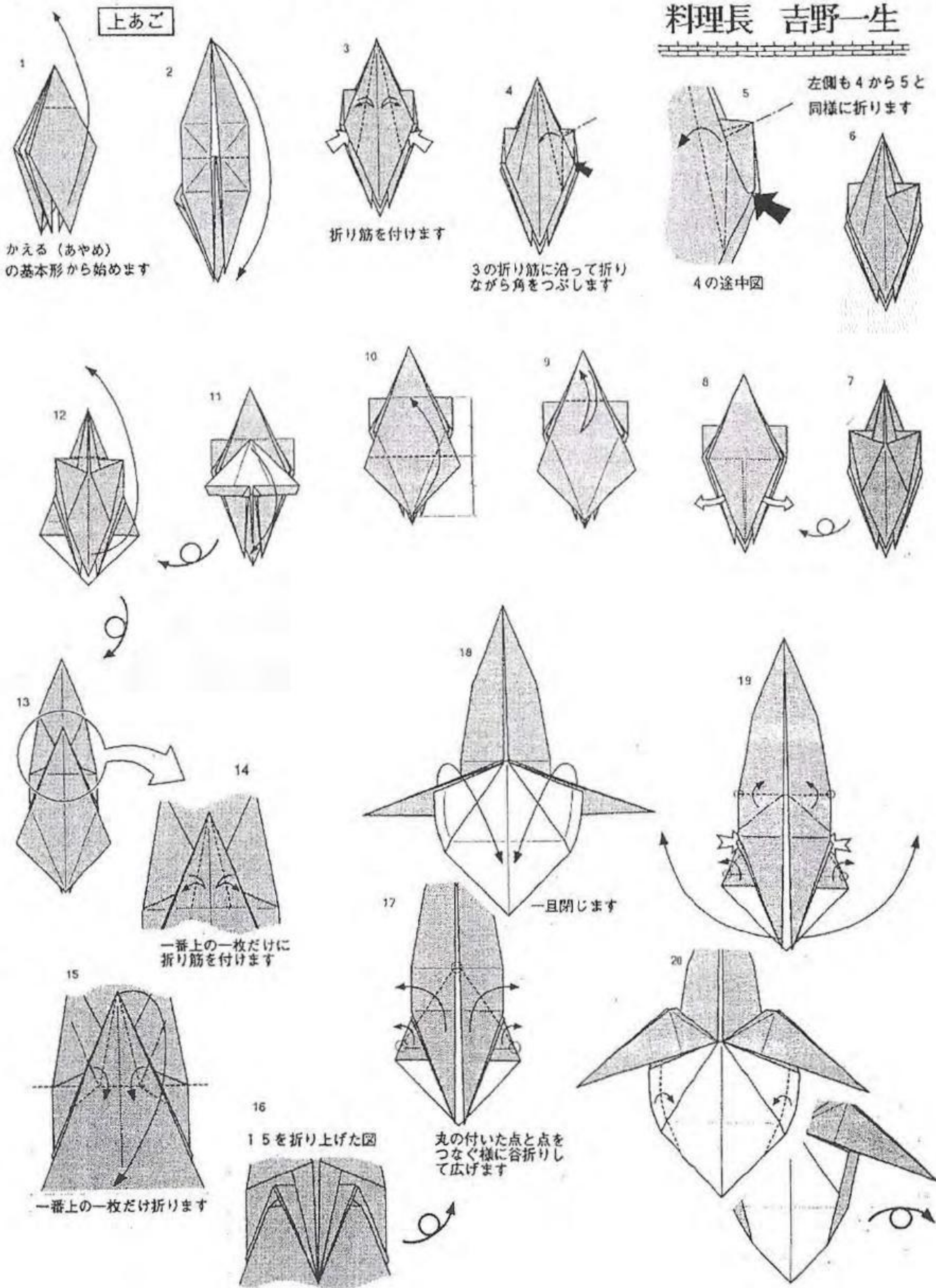
以上、山谷区別の表記法だけでも各種あって、折り方が似てはいるがいくつかの流派があったことを推測させる。何人もの「先生」（男性らしい）が、換骨奪胎、工夫を重ねてきたのだろう。これらすべてが魯精庵義道の作などとはとても考えられない。

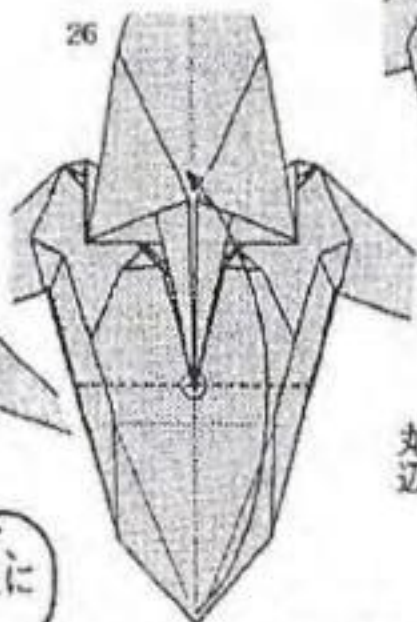
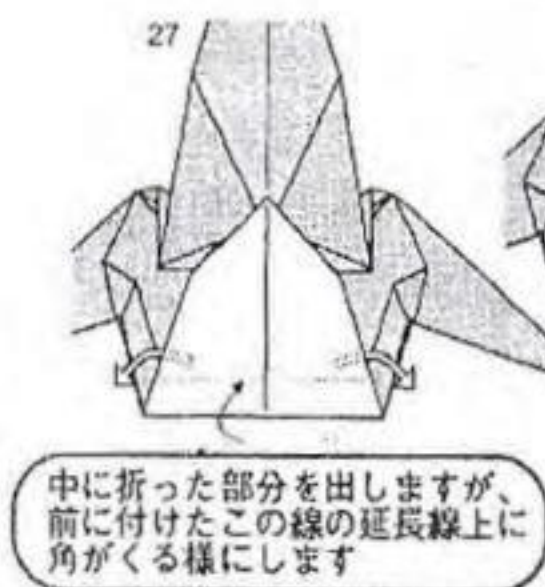
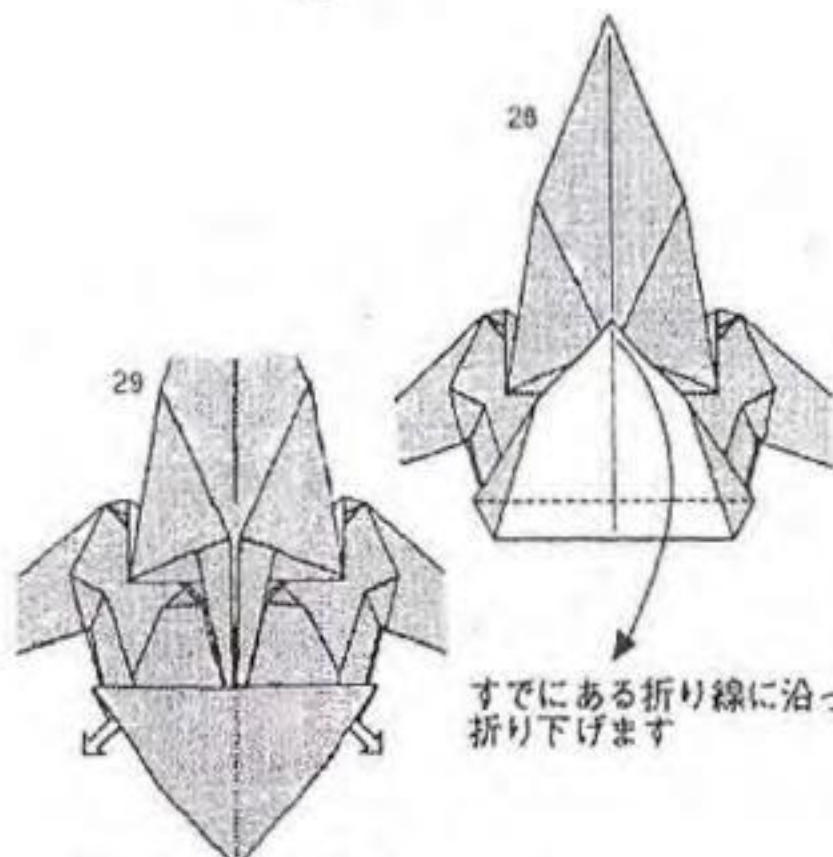
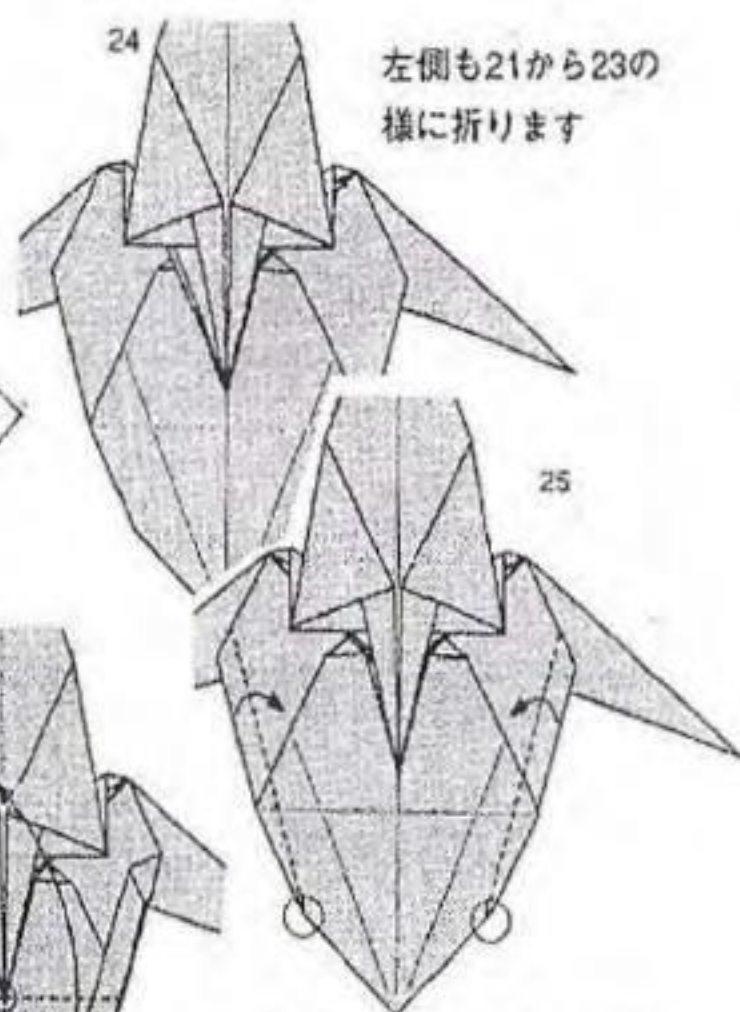
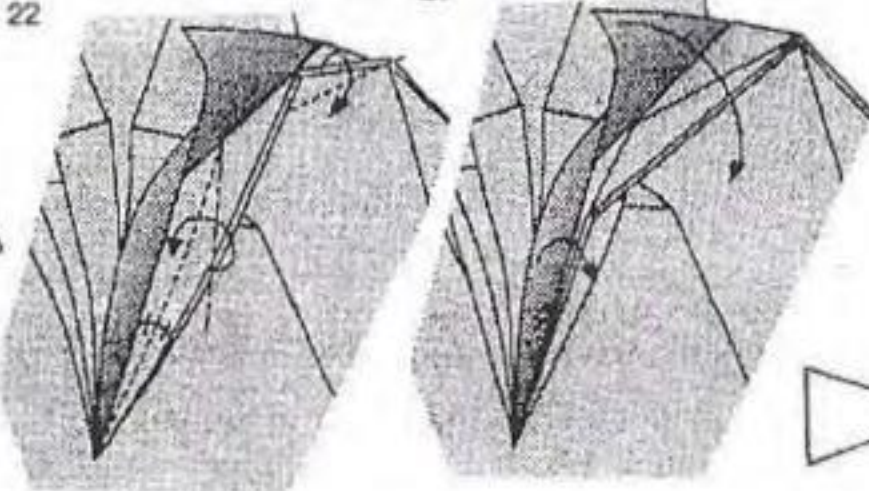
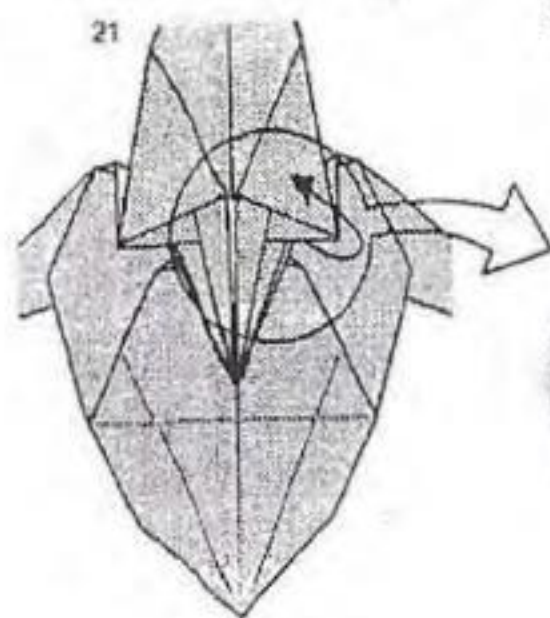
シェフ
料理長のお奨め品

今日のメニュー

ティラノサウルスの頭骨

料理長 吉野一生

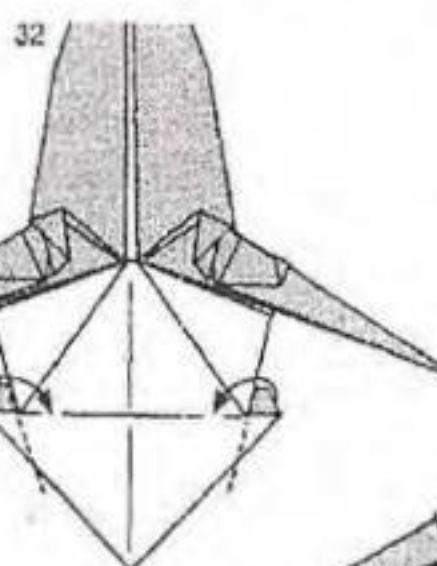
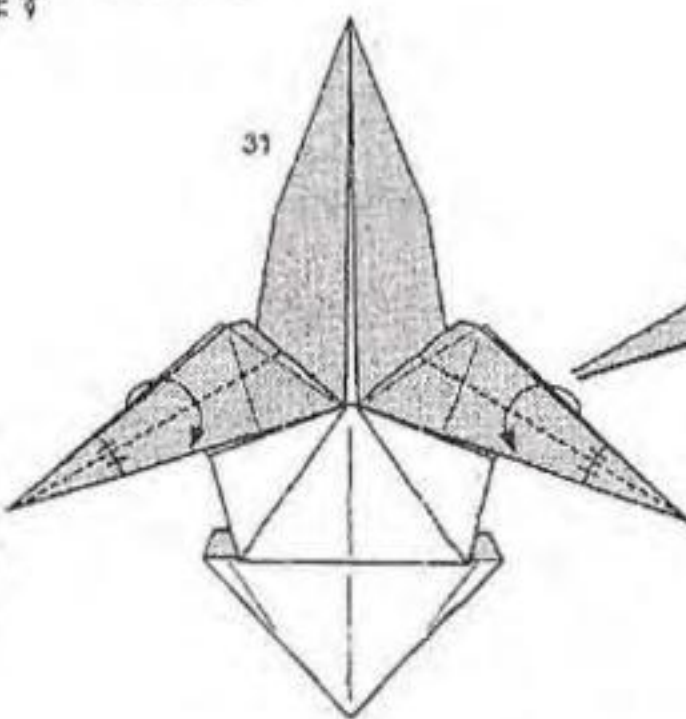
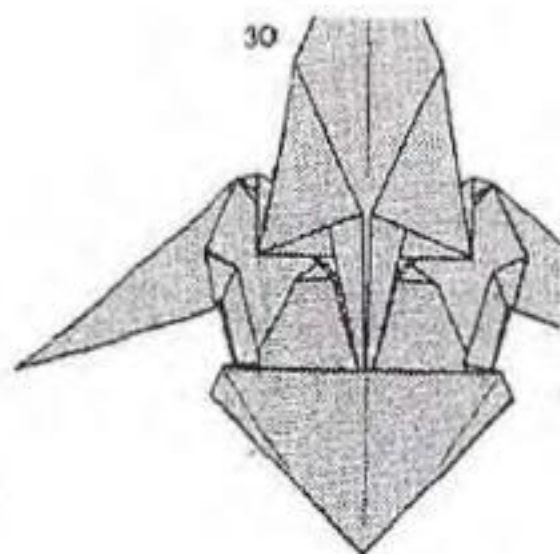




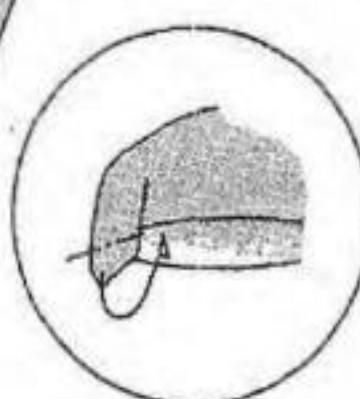
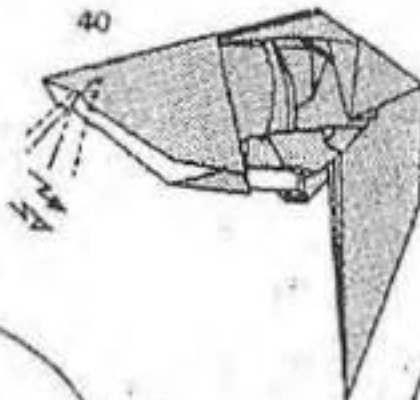
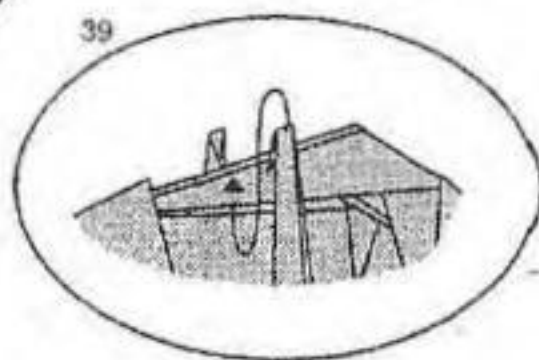
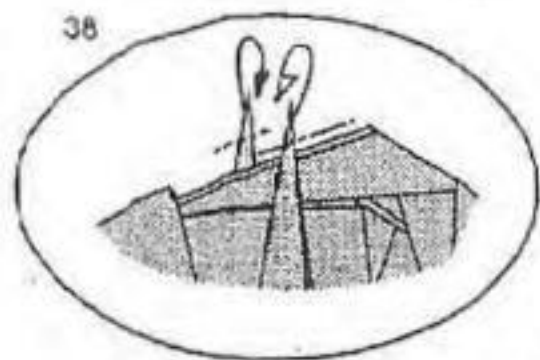
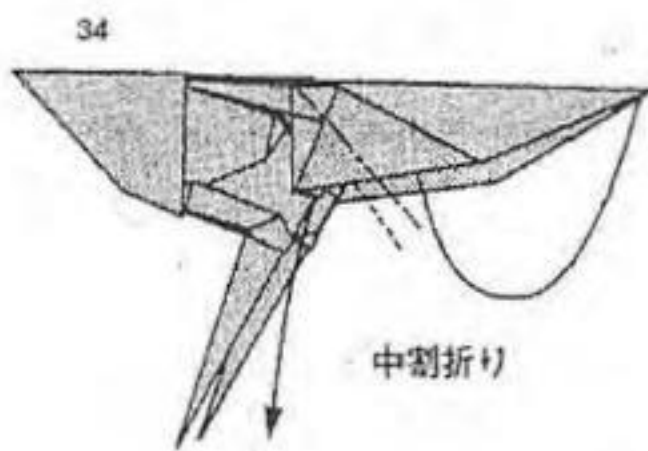
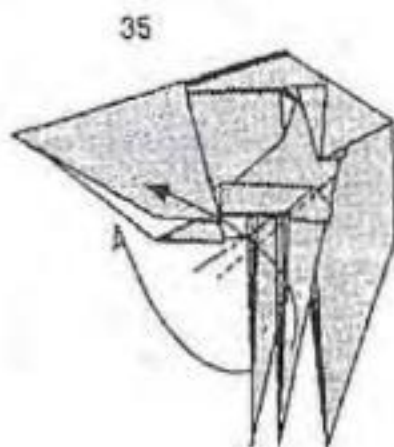
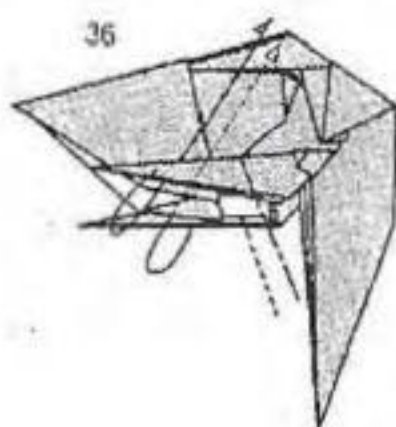
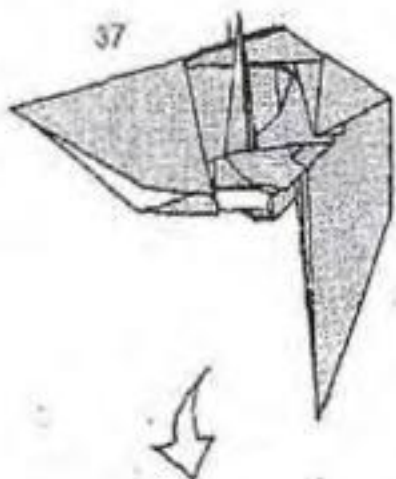
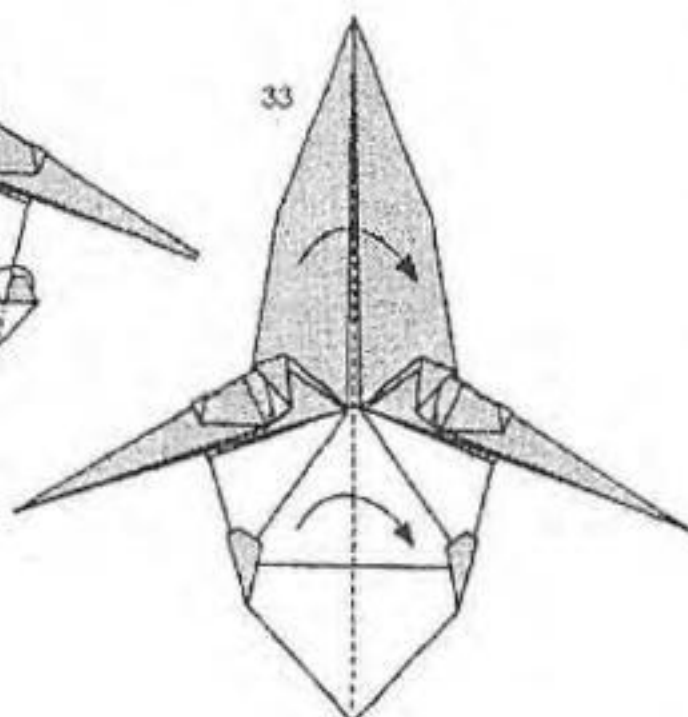
丸の所を基準に裏の20で折った辺に沿って折ります

丸印の先端を基準に上に折り上げます

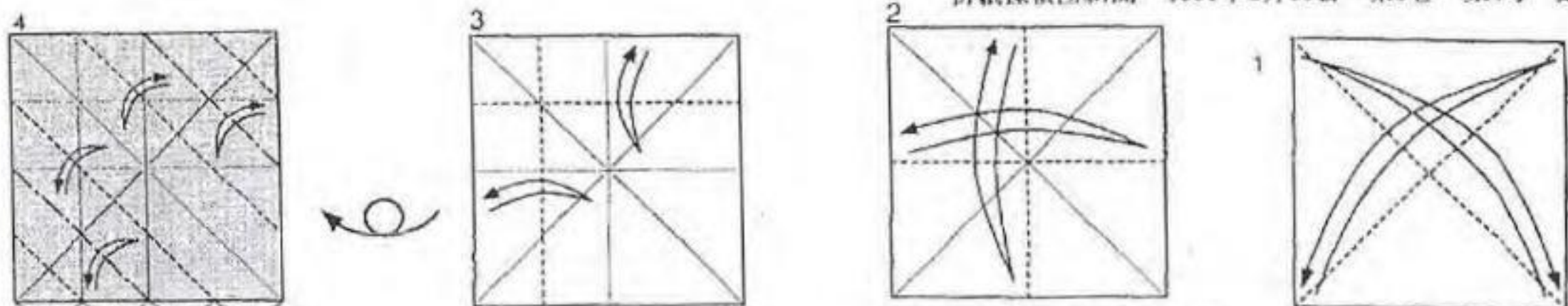
中に折った部分を出します



半分に折ります

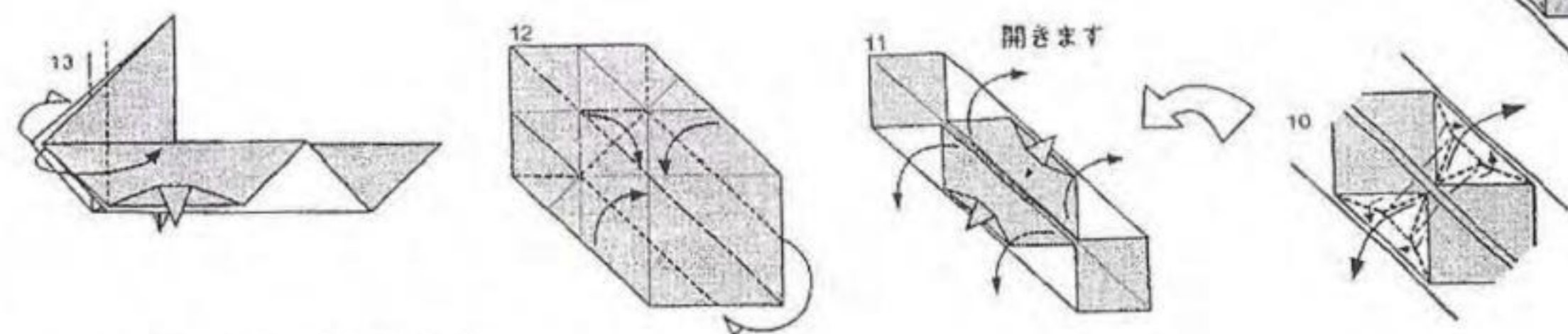
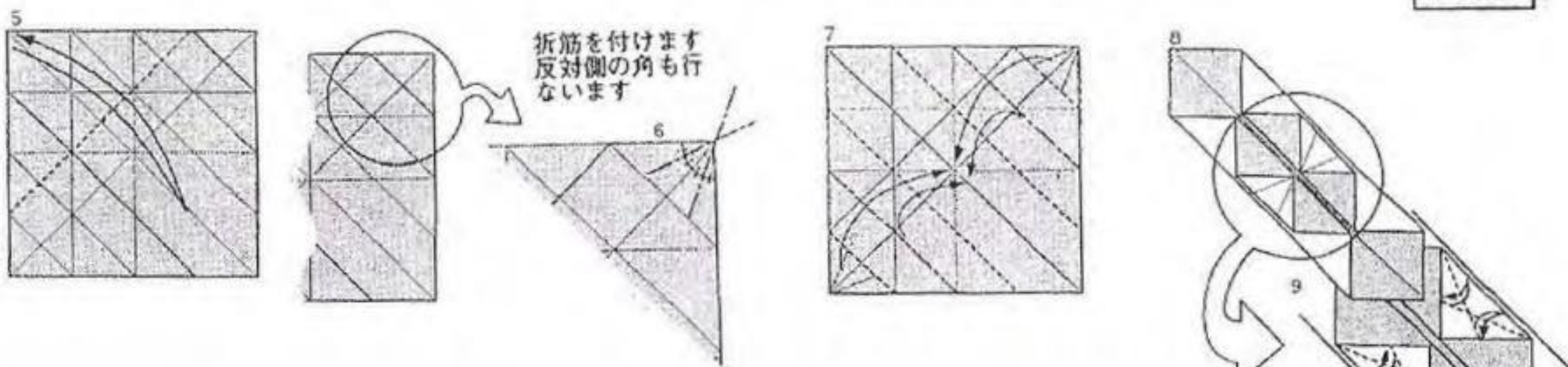


上あごはとりあえずできあがり、次に下あごを作ります

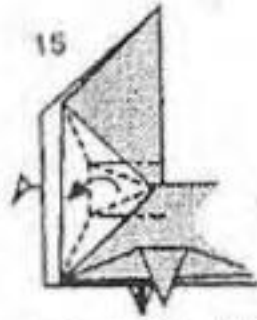


1から3で折り筋を付けます

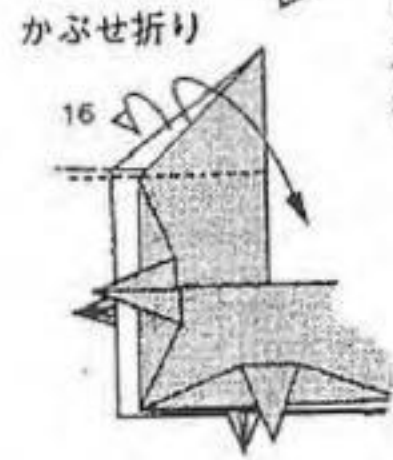
下あご



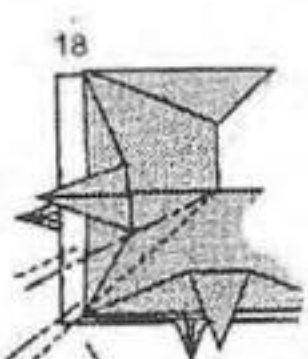
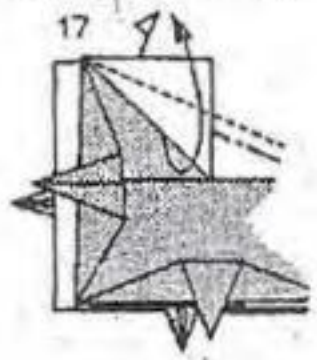
真ん中の三角の部分を中心折りして裏返します



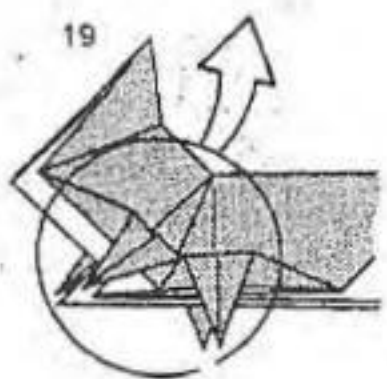
10と同様に折りますが
ただし今度は折り筋が
付けられていないので
折りにくいです



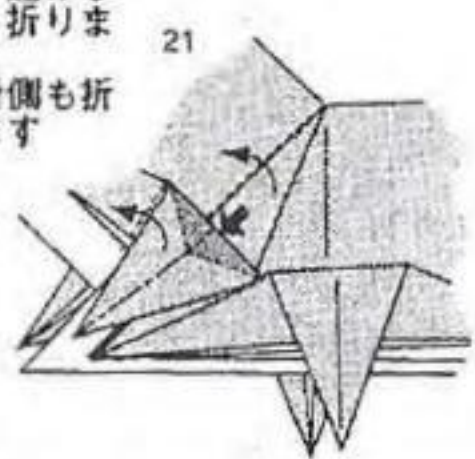
もう一度かぶせ折り



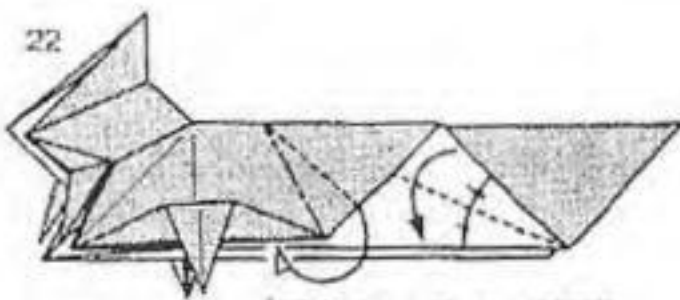
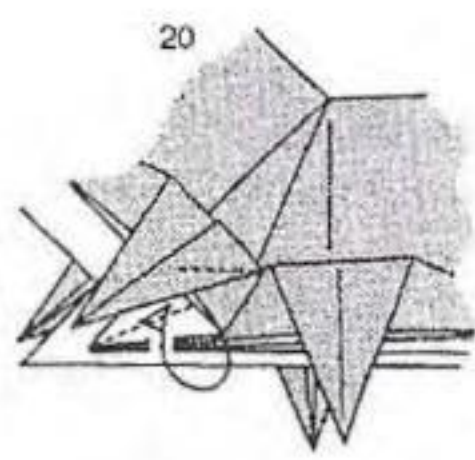
段に折ります



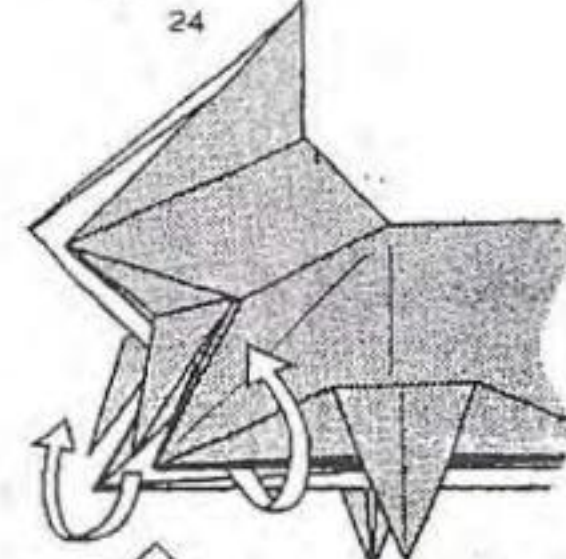
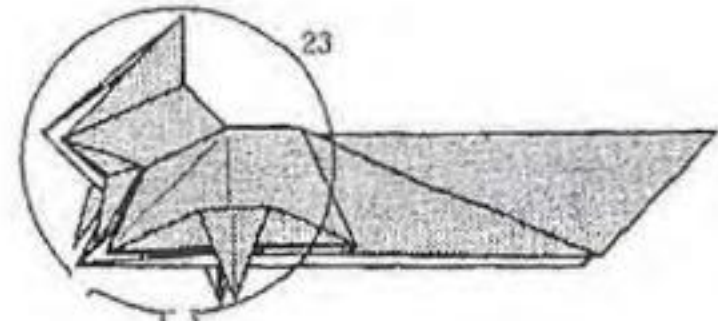
●の部分
押し込みな
がら折ら
す
反対側も折
ります



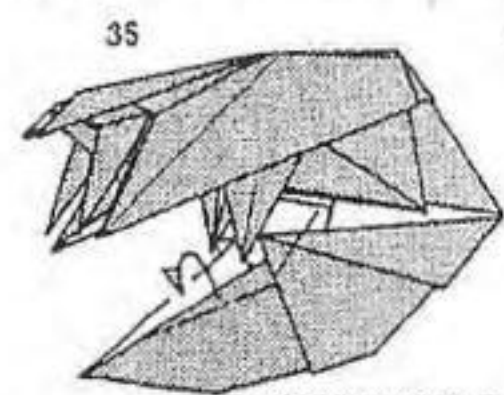
中割折
り
反対側
も
い
ま
す



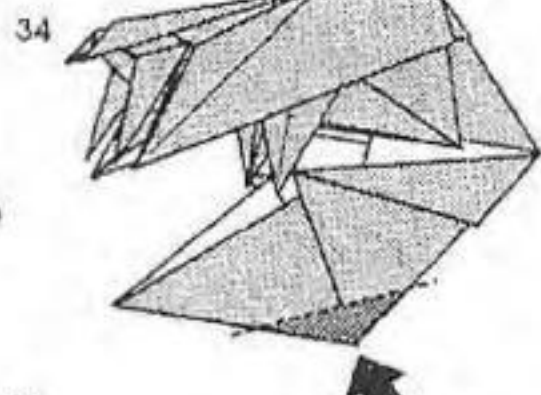
反対側も行ないます



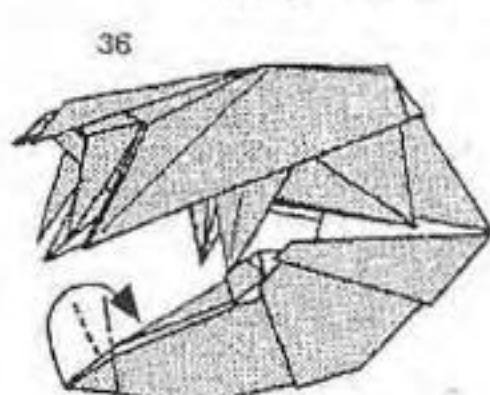
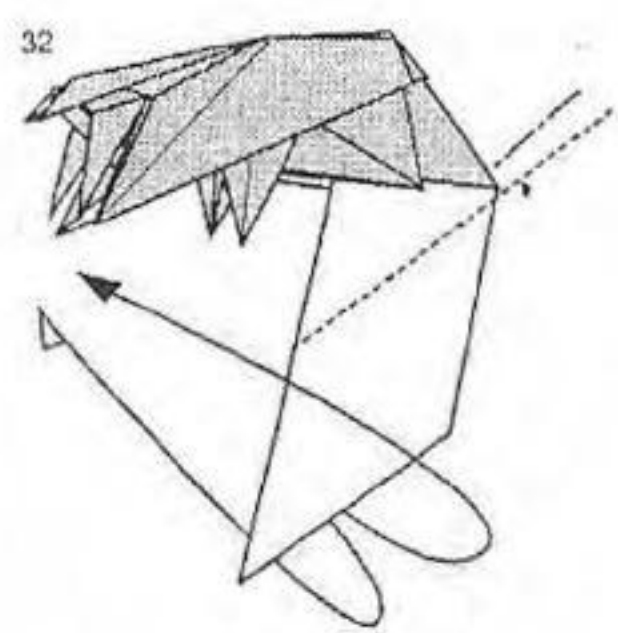
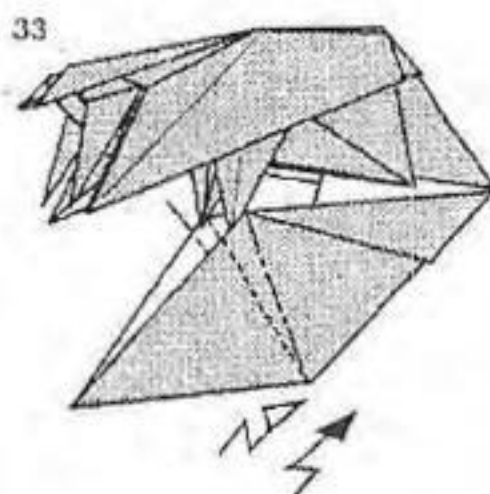
左右に少し広げて下から
見ます



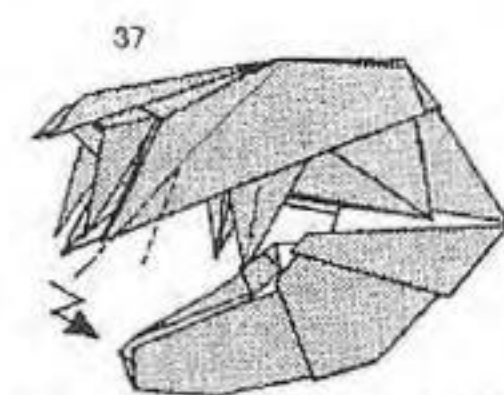
内側に折り込みます
反対側も行ないます



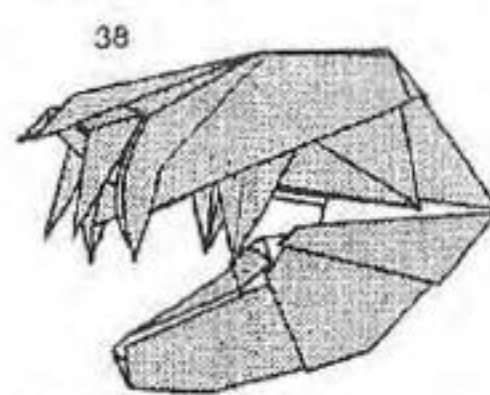
●の部分を中心に
押し込めます



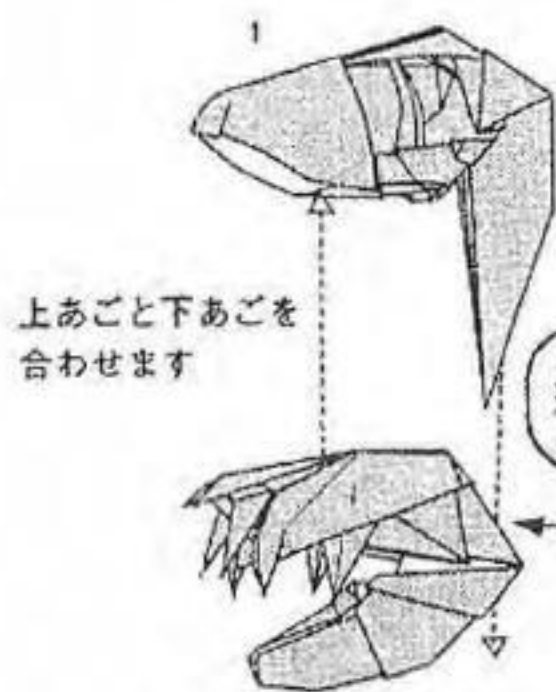
中割り折り



つまむようにして先端をとがらせます
反対側も行ないます

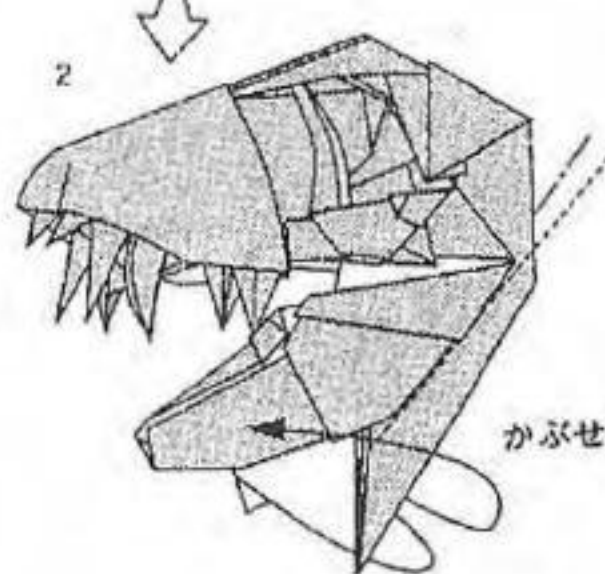


下あごも一応完成
次に上あごと下あごを合わせます



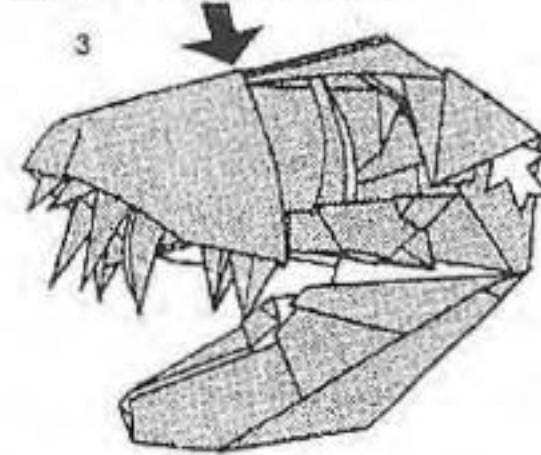
上あごと下あごを
合わせます

ここは左右の間を
通すように差し込
みます

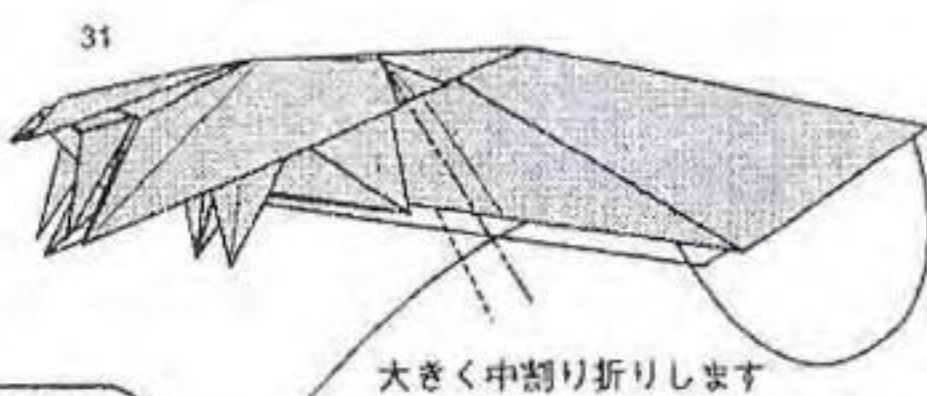


かぶせ折り

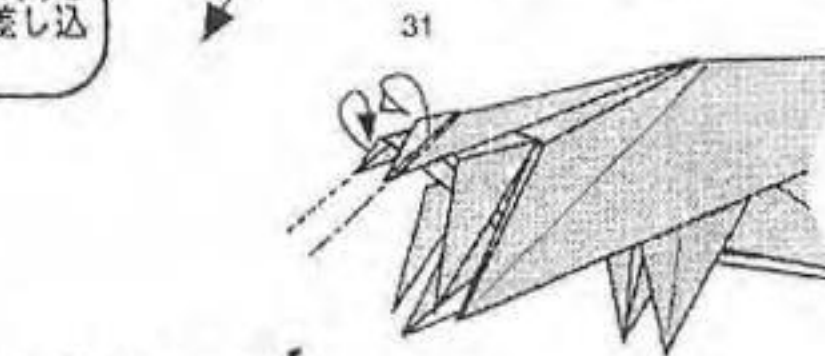
各部の丸みをつけて完成



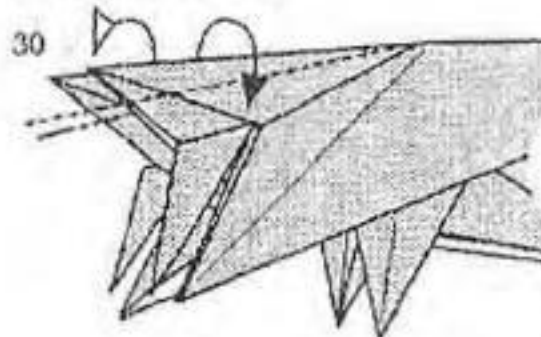
完成
1991-FEB-9



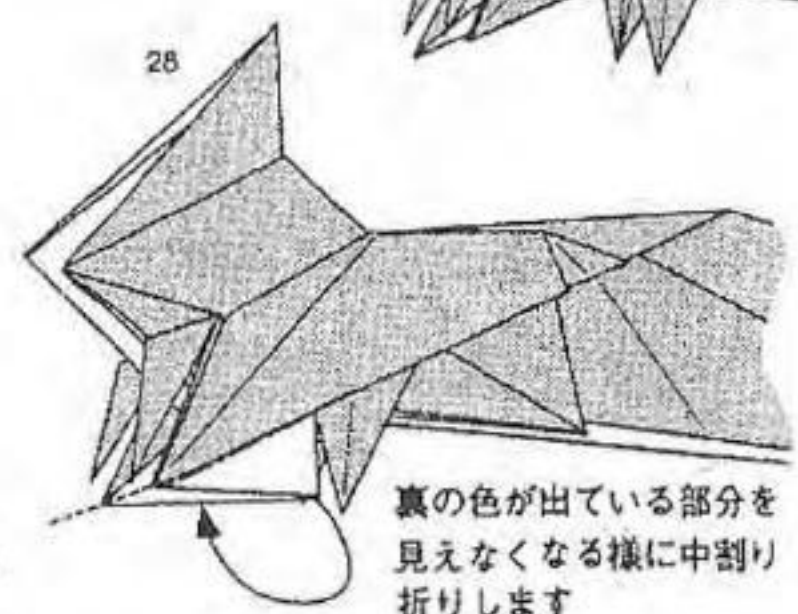
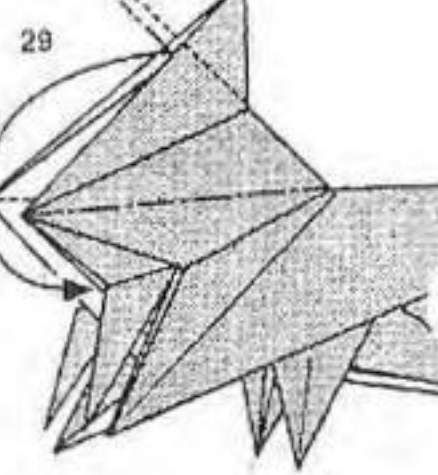
大きく中割り折りします



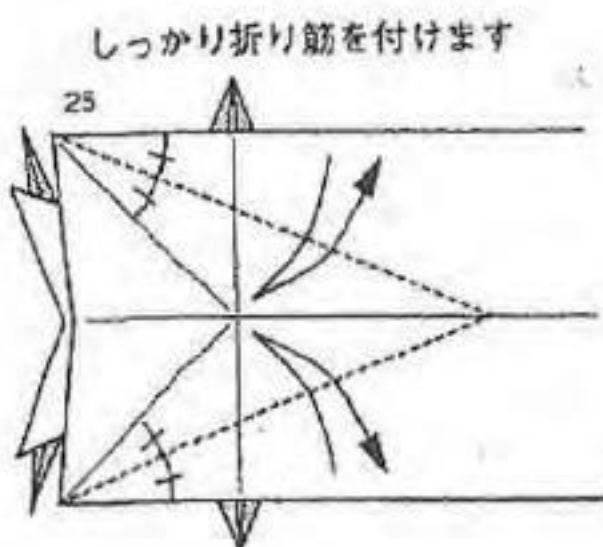
先端を細くします



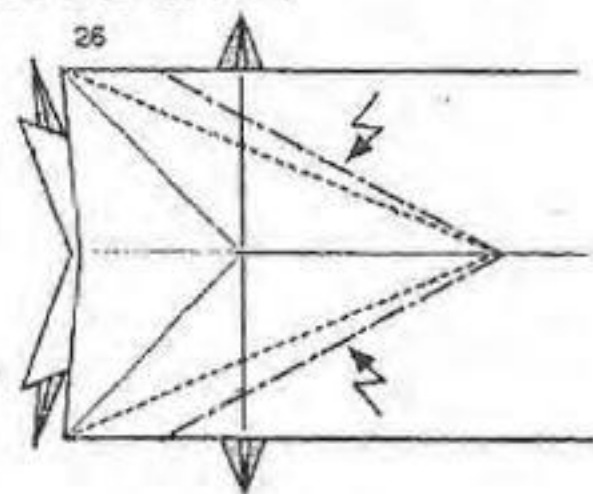
中割り折り



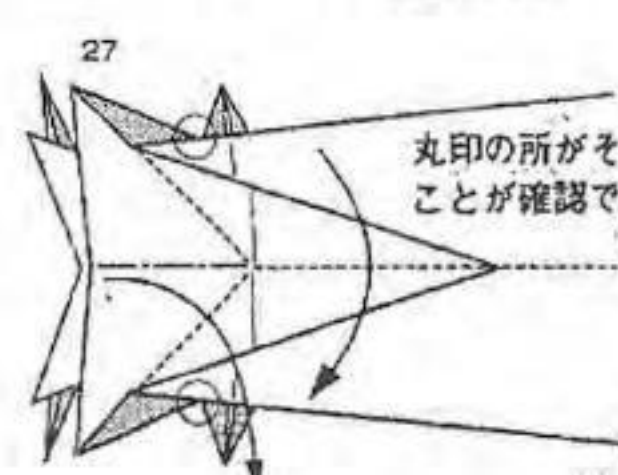
裏の色が出ている部分を見えなくなる様に中割り折りします



しっかり折り筋を付けます



谷折りは25で付けた線を山折りは次の図のようになるように折ります



丸印の所がそろっていることが確認できたら半分に閉じます

ぐらい折り

第8回世界の折紙展観戦レポート

さて前回に引き続き世界のおりがみ展の記事であります。今回は我々探偵団スタッフの勝手気ままな感想を書かせて頂きます。紙幅の都合により全ブースについて触れることが出来ない事をお断りしておきます。(文責 本村、西川)

1. パノラマブース編

※恐竜ブース

我々探偵団スタッフはこれに全力を注いでおりましたため個人作品を出品する余力がありませんでした。(ただし、芸名バブル小林ことこびやしくんを除く)

そのねらいとして为什么呢。協会理事長賞を頂きましてありがとうございます。

内容についてはノーコメント。

お便り待ってます。

※メインテーマ

救おう!

かけがえのない地球

従来に比べてかなり難しいテーマである。率直に言ってテーマを消化しきれなかったブースが多かった。またテーマそのものを素直に表現すると「きれい」でないものを作らねばならない場合もあり担当された皆さんも頭をひねったであろうと思われる。

(これに比べりゃわたしらは恐竜と木をならべときゃいいんだから楽なもんだったよーあ、今の読まなかったことにしといてー)

これは日本折紙協会に対する提言なのだが、第1回世界展からもう15年、もはやテーマを文面で与えておいて「○○のブースはすべて□□さん、△△グループに任せる。」といった今までの方式ではなく、「こんな情景、場面が欲しいのだが」と「絵」を作っておいて、「動物はAさん、植物はBさん、建物はCさん」などと各人の得意な分野(飾り付けもありますね)で手腕をふるってもらうやり方をとれないものだろうか。

人様に見て頂くものでもある事だし、苦手な物で七転八倒するより好きな物の方が伸び伸びと製作できて、出来た物の見栄えも良いのではあるまいか。

おりがみ展を見に来る人は「情景」は見ても、説明文を読むとは限らない。テーマを何とかして「絵」として表現することに力をそそぐべきで

はないだろうか。

(協会事務局のご苦勞も多少は判ってはいるつもりですが)

ではこの内いくつかのブースについて触れますと…

○ゴミ公害

ゴミにしてはきれいである。だが、今回のブースのうちではもっとも分かりやすくテーマが表現できたと言えそうである。でもゴミのボリュームがたりないな。京都タワーの中腹までゴミで埋まるくらいでもよかったんじゃない? 車に掛けたカサが好評でした。

○大気汚染

オゾン層の破壊を表現しようとしている意図はわかるがやはり難しいようだ。

○熱帯雨林の減少

山や森が良く見ると動物でできているというだまし絵的效果を狙ったのだろうが判りづらい。

○豊かな国と貧乏な国

(いいのかよ、こんな題名)

豊かな国の金庫のカバなど楽しさはあるが、豊かさと貧しさの違いが良くわからない。普通の折り紙用紙だけでなく紙を工夫すれば、もっと良くなっただろう。

○砂漠化

個々のペンギンの表情がこと細かに出ていて、出来の良さでは全ブース中一、二を争うだろう。惜しむらくは背景のオーロラが絵だったこと。とは言え、絵心ある方が描いたらしく大層美しい絵であり、紙などでオ

ーロラを作ったとしてもこれ以上の効果がでるか疑問でもある。

(これも含め、折り紙に絵を描くことの是非はなかなか難問であります)

○温暖化

ミラーをうまく使って遠近感がよくでていた。背景の地図もいい。

(ラクダの全身骨格が見たかったなーなんていっちゃったりして)

○月面都市

月面車や宇宙服など個々の細かい作品がとても緻密にできていた。背景の銀河の処理もオシャレ。ただ、ドーム(月面基地?)はもっと淡目の紙を使った方が違和感がなかったのではないかな。

(発砲スチロールの山がみごとだったわ。こびやしくん談)

※美しい日本の季節

作り慣れたテーマだったことも幸いしてか、どれも手堅くまとまった出来の良さであった。

それぞれ一場面一ブースだったのもまとめ易かった一因かもしれない。(2ブースをつなぐのは結構面倒なんですよ)

最も見応えがあったのは九月の菊人形ですね。

※伝承おりがみ

「端正」の一言に尽きる。このコーナーこそまさに適材適所というべきである。小さな紙で折ったことも成功の理由だろう。

※千羽鶴折方

まるごと家に飾りたくなるコーナー。復刻本が間に合っていればさぞかし売れたろうにねえ。

※北アフリカ※
レポート

山口 真

◆アグレブ三国(モロッコ、チュニジア、アルジェリア)を回って。

当然のことのように、どこでも大好評であった。それなりに関係者も喜んでくれた。しかし、なんか欲求不満が心の端に残っているような気がしてならない。日本文化の紹介と割り切ってしまうと別になんでもないことなのだろう。気負い過ぎた気持があったのか。どうしても折り紙の普及ということまで考えてしまうよ

うだ。参加者の誰もが喜んでくれ、賞賛の言葉まで頂いたりもした。しかし、私の帰った後は折り紙の形跡すら残らないような気がした。多分、本当に残らないだろう。過去、私が行く3年前に、著名な折り紙作家といわれる方が同じ、国際交流基金からの派遣で行ってらしたそうだが、3年後の今回、その後の折り紙の足跡のようなものは、何も残っていなかったのだ。3年前の時にも参加したという人が数人いたが、覚えていた作品はなかった。同じお金と時間をかけるのならばもうすこし何とか考えたい。

やなみくん

第六話

逆襲のキャンパスライフ 世間亭キニスキー



おりがみ はうすの前の
坂を上るとこびやしくんの
通う大学にいたる



あ、
おたまた



こびやしくん
今日は
おりがみはうす
のかん



二人はとても気が合う

編集後記

- ◆夫婦円満に役立つ「折り紙」をみなさんもどうぞ。(榎本)
- ◆図が多くてごめんなさい。次ぎもきつとごめんなさい。(吉野)

おりすじ

私の折紙歴は保母試験が出発点である。今から14年前、保母資格の取得を志し、栃木県の保母試験を受験した。この試験は約1~2カ月前に準備講習会というものがあり出題範囲がだいたい分かるシステムになっている。その講習会で、本番の試験に折紙が出ること、そして、それが夏に関係したものらしいということが分かり、折紙の折り方すら知らなかった当時の私は早速本屋巡りをして、適当な本を買い集め、いくつかの折り方を覚え、試験に臨んだわけだ。正確さには自信がないが、「折紙で夏の情景を表現する。」といったような問題であったと思う。当時の試験官は受験生に対して、「全部折紙でなくてもいいですよ。少しぐらい紙を切ったりちぎったりしてもいいですよ。」「ここの試験は合格率が高いんですよ。8割ぐらいの人がパスします。」と言った。その言葉に緊張が和らぎ、結果的に、無事合格した。

前置きが長くなってしまったが、

「なぜ、折るのか」

榎本宣吉

私と折紙との関係はこうしてスタートした。しばらくの間、折紙は私にとってノルマ以外の何物でもなかった。本を読んで折り方を覚えるという作業に苦痛を感じた。折ることが楽しくなったのは「世界の折紙傑作集」と言う本を読んでからである。一冊の本との出会いが私の人生を変えたと言ったらオーバーに聞こえるが、本当にそういった経験であった。

考えてみれば私は折紙と見合い結婚したのである。親から言われて仕方なくお見合いし、仕方なく結婚してしまったようなものだ。しかし、それなりの魅力がなければ関係は長続きしないものだ。私にとって、折紙の魅力の本体は、「折り紙を通して多くの素晴らしい人たちに会える。」ことであつた。少なくとも、妻に、「一週間に200~300円の小遣いがあればそれなりに満足し、楽しんでいる安上がりな亭主。」と思われるだけでも、折紙を続けている価値はあつたと感じる今日このごろである。

折紙探偵団からのお願い

わが折紙探偵団も、幸にして皆様のご支持をいただき、講読団員の数も300名近くに達し、次号からいよいよ二期目に入ります。団員の皆様には是非とも継続をお願いします。

一年間通して運営しました結果、諸般の事情により、900円ではどうしても厳しく辛いものがあります。ここにやむをえず、皆様のご協力を頂き、二期目の会費は、一年間(6号分)1,000円とさせて頂きます。

今後とも、ご愛読宜しくお願いいたします。 団長一木村良寿

- ◆最近、何も書いていません。次ぎの次ぎくらいから復活したいと思ひます。(高井)
- ◆当分、コテンコテンでゆきます。(おりがみ庵主人)
- ◆ハクサンから逃げないでくれ。社

ギャラリーおりがみはうす 個展希望者募集中

◆あなたもギャラリーおりがみはうすでおりがみの作品展を開いてみませんか。只今、おりがみはうすでは、個展、グループ展開催希望者を募集しています。◆おりがみは一人で作っているだけではつまらない。色々な人と出会いがおりがみの楽しさを広げる。そんな、みんな場におけるおりがみはうすをご利用下さい。◆ギャラリーの使用料は無料です。個展案内のはがき代のみご負担頂くだけです。詳しくは直接お尋ね下さい。

- 会人になっても (大器晩成)
- ◆発行が遅れたのは、私のせいです、ゴメンナサイ (山口)
- ◆みなさん、読んでるだけじゃなく、てお便り沢山ください。イラスト、漫画の投稿も大歓迎。 (世間亭)

発行・折紙探偵団

112 東京都文京区白山5-36-7

ギャラリーおりがみはうす内

phone (03)5684-6040

発行人・木村良寿

編集人・岡村昌夫

ギャラリーおりがみはうす 個展のご案内

※男たちの作った「ひなまつり」2月7日~3月5日 只今、開催中。男たちが作ったおひなさまの数々、女性が作る奇麗なおひなさまとはちょっと違った遊び心のある作品もあります。

※おりがみ一草 木 展 大野純子 3月5日~4月9日 第8回世界のおりがみ展・恐竜のブースで一躍脚光を浴びた草・木、決めの色使いと感覚、作品の応用例は、きっと皆様の目を楽しませてくれると思います。———折紙探偵団友情出品———昆虫(折紙探偵団)。